

# 視察研修・研修会等報告書

議席番号 ( 11 ) 議員名 ( 中村 久信 )

1 年 月 日 平成 27 年 10 月 14 日～10 月 16 日 (日数 2 泊 3 日)

2 場 所 大阪府池田市、徳島県神山町、兵庫県相生市

3 視察、研修事項 池田市：地方分権制度について  
神山町：IT 企業の地方誘致について  
相生市：子育て支援都市について

4 面 接 者 以下の通り

5 視察研修、研修会の成果

(1)池田市：地方分権制度について

1. 面接者：議会事務局 増野局長、総合政策部地域分権協働課 岩寄課長、北村副主幹

2. 事業概要

①自分たちのまちは自分たちでつくろう

⇒個人住民税の 1% の使い道を市民に委ねる (約 6500 万円)

②具体的な推進内容

・ 10 の小学校区に 11 の地域コミュニティ推進協議会を設置

⇒地域の自治会等各団体の代表者及び地域を良くしようと思う人は誰でも参加可能

・地域コミュニティ推進協議会が地域のための予算の使い道について市へ提言

⇒地域の課題を解決するための事業、予算上限は各地域概ね 800 万円

③地域コミュニティ推進協議会を支える仕組み

・ボランティア職員の配置⇒各地域 3～4 名、平日夜会議に参加しサポート

・リーダー養成講座⇒地域の担い手の育成、タウンウォッチングなどを行う

・地域分権フォーラム⇒市長や教授の講話により認知度向上及び参加の呼びかけ

3. 実施例

①安全安心事業⇒地域の安全安心のためのパトロール隊による青パト巡回

②環境事業⇒地域の環境保全向上のための花いっぱい運動 (花の植栽)

③高齢者配食サービス事業⇒高齢者の見守り声かけ運動

④小さな絵本館推進事業⇒親子への絵本読み聞かせ など

4. 効果

①地域と市の協働により地域のニーズに合った事業の展開

②まちづくりへの関心の高まり

## 5. 課題

①地域の担い手の不足及び高齢化、活動者の疲弊

②事務作業が多く地域の負担大

③アイデア不足

④ボランティア職員の負担大、環境整備要

⑤提案内容の精査等担当部門（者）の負担大

⑥関係部門間の連携

## 6. 所感

この事業は住民税の一部の使途を自分たちの住んでいる地域を良くするために考え

実践する画期的なものであり、自治の考えに則した事業である

現状は、マンネリ化やアイデア不足、地域の担い手不足や高齢化、職員の負担増大など

課題も多く生じている

しかし、具体的な予算が示されるとより真剣にまちづくり（地域づくり）を考えより良

地域づくりにつながり、短期的には有効と感じる

また、具体的な推進においては、地域の若者や子育て世代を多く巻き込む必要がある

(2) 神山町：IT企業の地方誘致について

1. 面接者：産業観光課 高橋課長補佐、NPO グリーンバレーオフィス 木内様

2. 事業概要：神山プロジェクト～創造的過疎から考える地方創生～

①サテライトオフィス

⇒IT・映像・デザインなど働く場所を選ばない企業の誘致

②ワークインレジデンス

⇒町の将来にとって必要となる働き手や起業家の誘致

③神山塾

⇒厚生労働省の基金訓練、求職者支援訓練による後継人材の育成

3. 実績

①サテライトオフィス

- ・2015年現在、12社がサテライトオフィス設置、本社移転、新会社設立
- ・合計30名新規採用、3年後までに30名程度の新規雇用が生まれる見込み
- ・エンジニアやプログラマーだけでなく、営業部門（オンライン）も展開

②ワークインレジデンス

- ・ビストロ、カフェ、パン屋、ピザ屋、靴屋、惣菜屋、ゲストハウスなどが開業
- ・商店街への展開によってこれまでに類を見ない地方における新たな商店街モデルの誕生

③神山塾

- ・訓練生の属性：独身女性、30歳前後、首都圏出身、クリエイター系が多数
- ・6期77名が修了、移住約50%、SO就職10名、カップル誕生10組

4. 所感

高速通信網の発達により、IT関連のオフィスは環境が整った地域であれば場所を選ばない

矢板市は大都市に近い田舎であり、この様な取り組みは大変有効であると考えている

(3) 相生市：子育て支援都市について

1. 面接者：宮艸副議長、議会事務局 団副主幹、企画総務部 中津参事、北条主事

2. 事業概要：あいおいが暮らしやすい11の鍵

①出産祝い金：予算12,003千円

⇒産婦人科が市内にないため通院等の負担軽減として出産時に5万円を贈る

②子育て応援券交付：予算4,968千円

⇒親に0～2歳まで2万円の子育て応援券を贈る（保育所一時預かり、延長保育  
ファミリーサポート、任意予防接種など有料の子育て支援サービスに利用可）

③マタニティタクシークーポン交付：予算630千円

⇒通院や外出に利用できるタクシーの助成券1万円分（500円×20枚）を贈る

④子ども医療費助成：予算45,537千円

⇒県事業である小4～中3までの入院医療費の無料化に加え、市単独で通院医療  
費の自己負担分を助成し無料化を図る

⑤市立幼稚園給食実施：予算9,285千円

⇒週3回給食を実施

⑥給食費の無料化：予算109,413千円

⇒市立幼稚園、小学校、中学校で給食の無料化

⑦保育料軽減事業：予算54,862千円

⇒市立幼稚園保育料の無料化、私立幼稚園・保育所には月額8千円を限度に補助

⑧市立幼稚園預かり保育事業：予算5,361千円

⇒4歳児・5歳児を対象に通常保育終了後16時30分まで月額5千円で実施

⑨相生っ子学び塾事業：予算6,115千円

⇒児童の安全な放課後の居場所づくり、自学自習力と基礎学力の向上を目的に  
地域の人々や教員OBの協力のもと、小5年・6年生を対象に国語・算数・  
英語などについて実施

⑩新婚世帯家賃補助金交付事業：予算34,000千円

⇒市内の民間住宅に新たに入居する、結婚3年以内で夫婦のどちらかが40歳  
未満の新婚世帯に月額1万円の家賃補助を3か年実施

⑪定住者住宅取得奨励金：予算16,000千円

⇒市内に住宅を新築または購入した40歳未満の世帯に50万円を、市外からの

転入者で住宅を新築または購入した世帯に30万円を5年に分けて助成する

### 3. 各種施策開始時の反響

- ①なぜ、子育て世代だけの支援なのか
- ②食（給食）に関しては保護者が負担すべきではないか
- ③高齢者福祉サービスが後退するのではないか
- ④短期間で終わってしまうのではないか
- ⑤財政的に続けて行けるのか

### 4. 反響に対する対応

- ①第1期行財政健全化による効果を使い財政状況についても中長期の

シュミレーションを行ったうえで実施

- ②高齢者・福祉サービスは維持

議会や市民の理解を得るために、これらの事を市民対話集会等を通じて説明

### 5. 実施後の声

#### ①市民

- ・幼稚園から配膳や食べ方の教育をしてありがたい、好き嫌いが無くなった
- ・給食無料化は地元の食材を多く使い栄養バランスもよく、ばらまきとは違う
- ・子育てに余裕が出来子どもと向き合えるようになった

#### ②転入者

- ・子育てするにはとても良く、住みやすい
- ・子どもの教育に対する熱意を感じる
- ・様々な助成があり、これから結婚・妊娠・出産考えるなら、ぜひ移住すべき

### 6. 課題

- ①最大の目的は定住者を増やす事であり、住環境や交通の利便性なども重要

- ②近年の社会経済状況の低迷による財政面の不安

### 7. 所感

人口増には子育て支援は重要。子育て世代の生の声を多く聞き取る必要を感じる

でも、あれもこれもは困難、より選択と集中が必要か